



ベンキョーの意味を知って 元気になる！

みんなの に答えます

みんなは「何のために勉強するんだろう」って思ったことない？
そんなモヤモヤした疑問をスッキリ解消して、
これから始まる高校での3年間を、元気に勉強しよう！

監修 ● 橋爪大三郎・東京工業大学教授(社会学)

中学では高校受験のために勉強した。
高校では大学受験のために勉強するのかなあ？

いまは当たり前みたいに学校に行ってるけど、昔は学校なんてなかった。なぜだと思う？
それは、生まれたときから何の仕事をするのか決まっていたから。たとえば、蛇使いの子は蛇使い、鍛冶屋の子は鍛冶屋というようにみんな家の仕事を継いでいたんだ。だったら学校になんか行かないで、お父さんの仕事を見て覚えればいい。というわけで、学校はいらなかった。

みんなは、どんな職業に就くか決まってる？
まだだよ。どういう仕事をするのかわからないから、将来に備えて学校で勉強しておくと考えてみたらどうだろう？ こんなことができる、あんなこともできると学力をつけて

行ける？

持つて行けるのは英語ができるとか、数学の方程式はまかせておいてとか、そういう能力。単語を覚えるのは、来週の試験のためじゃなくて、20年後の自分のために覚える。

おけば、将来自分の就ける仕事の可能性も広がってくるものね。つまり「職業選択の自由」があれば、必ず学校というものがあるんだ。でも、あんまり長い間学校に行っているところ、勉強がどういう仕事に関係があるのかわからなくなる。これは大きな問題だよ。

そこで、長い学校生活の中たるみを正すために試験がある。学校の先生が「今度の期末試験までに覚えてこいよ、じゃないと点が悪いからな」とか、「これやっとかないと入学試験に合格できないぞ」とか言うけれど、試験というのは学校の中だけの問題。本当はそんなこと、どうでもいいんじゃないかな？
だってさ、試験の成績なんて社会に持って

そのときまで忘れないようにしつかり覚えておこうってやらなきゃ、意味がないんだ。勉強は試験のためにやるんじゃないって、自分のためにやる。それが勉強の本当の姿なんだ。



昔は、たいていの人が字を読めなかった。字が読める人は、税金を取るなど国の仕事や、宗教に携わる、ほんの一握りの人たちに限られていたんだ。あとの人は、しゃべるだけで十分に暮らせていた。農耕や狩猟が主な産業だった時代には、みんなに字が必要ではなかった。

字がいらないということは国語がいらないということ。もちろん正しい言葉遣いというのは必要だったけど、それは親などに習えばいいことで、別に学校で習わなくていい。

ところが今から約200年前、義務教育が始まり、大学や高校や中学がどんどんできて学校教育の制度が生まれてきたんだ。なぜなら、産業革命が起きて工業が時代の主役に躍り出たからだ。

みんなが就きたいと思っている職業をあげてみよう。エンジニア、看護婦さん、パイロット、医者、先生、保母さん、OLさん、昔は

教科書より
好きな本を読むほうが
国語の勉強に
なるんじゃない？

国語は
中学までの勉強で
十分じゃないかなあ？

エンジニアになるつもり
国語はあんまり
関係ないよね？



数学

数学は、何でこんなものを勉強するのかわからないと思うピカイチの科目だ。将来、何の役に立つのかわからないし、特に文系に進む人は、自分には関係のないような気がするよね。

ところが文系の学問も、実は数学のかたまりみたいなものが多いんだ。心理学や経済学なんていうのはほとんど数学。社会学も半分以上数学だよ。というわけで、いたるところの学問に数学が活かされている。少なくともその考え方が貫かれている。

たとえば、心理学というのは心を扱う学問だけど、困ったことに心は目に見えないし、触れない。そこでネズミや人間がどういう状態になると、どんな行動をするのだろうかって考える。「どういう状態にあったときに」、これが原因。「どういう行動をする」、これが結果。原因が決まれば結果が決まる。これは関数の考え方なんだ。「 $y=f(x)$ 」というのを習うけど、原因が x のときに、それがグルグルって f という関数によって、ポンと y という結果になって出てくる。ねっ、考え方として心理学は数学と同じだよ。

それから、私には数学なんて関係ないって思っている人も、実は数学の恩恵を受けて生活しているんだよ。

現在の科学技術の重要な部分は、ほとんど数学でできている。数学がなかったら、テレビもないしビルも建たない。発電もできないし自動車も走らないし、なんにもない。江戸時代に逆戻りだ。

数学も科学もなければ、人力でやるしかないから、お盆と正月以外は365日、朝早くから起きて遅くまで働くということになってしまう。これが科学がないということ。科学があれば、労働を機械に置き換えることができる。つまり近代社会になる。これは数学がもたらした最大の恩恵なんだね。

いま、私たちの社会が持っている重要な知識の一番だいじな、一番優れた部分を理解しようと思ったら、最低限度の数学の知識が必要なんだ。どれくらいかというところ、これが高校3年で卒業するまでの数学の知識。しっかりと勉強しておけば、将来どんな職業に就いたとしてもきつと役立つはずだよ。

7×0
 $x = y + 2$
 $\div 5$

因数分解なんて将来何の役に立つのかなあ？

よとか y とか出てくるけどあれがわかんない!!

文系に進むから数学は関係ないと思うんだけど？



英語

英語を勉強するけどアメリカ人は何語を習うの？

僕たちは英語を勉強するけど

アメリカ人は何語を習うの？



アメリカ人は、ほとんど外国語を勉強しない。世界の共通語が英語だから世界中の人が自国語を話してくれるわけ。

いつの時代でも、強い国の言葉をそれ以外の国の人たちが勉強するのが歴史の定めた。自分の国の力を強くしようと思ったら、世界の共通語である英語を勉強しなければならいんだね。英語ができる人が少なければ少ないほど、経済や教育・文化もうまくいかないし、科学技術も先細り。結果的に国が発展しないでさびれていってしまう。

いま、世界の国際化がとて急速に進んでいる。将来、みんなのほとんどが仕事のなかで、何らかの形で英語をしゃべったり、使ったりしていくようになるんじゃないかなって

思うよ。いまの何倍もね。

たとえば、パソコンで世界中と通信できるインターネットを知ってる？ このインターネットの情報は英語で書いてあるかというところ、これが英語。だから一番新しい情報は、英語がわからないと使うことができない。誰かがそれを日本語に翻訳してくれた場合だけ、日本語で読めるようになる。でも、翻訳するのは、お金も時間もかかる。なにより日本語になったところには、もうその情報は古くなってしまっているだろう。というわけで英語ができないと、インターネットのなかで自由に泳ぐことはできないんだ。

英語がおもしろくなる方法を教えよう。答えは簡単！ 外国の人と話すこと。日本人同士で英語の練習をしようとしてもダメ。だって、日本語が通じる相手だったら、日本語で話した方が早いもんね。

最近では、地方都市でも外国人が増えている。話すチャンス積極的に探してみよう！ なればつくろう！ たえば、ドイツ・ニールンに行けば、外国から遊びに来た人たちがいっぱいいる。

それから、英会話のテープやCDROMなどを利用するのもいいと思うよ。

答えは教科書に書いてある
何でわざわざ実験するの??

何で外国の山脈や
川の名前まで覚える
必要があるの??



理科は、自然を観察して自然現象についていろいろ知るための学問だ。理科の一番いいところは数学と同じで、答えが世界共通だということ。いや、世界なんてケチなこと言わない。月でも火星でも宇宙の果てでも同じ法則に従って同じ現象が起きるんだ。

ただ、いま自然科学の最先端では、目に見えないものを相手にしている。電気や磁力、原子も素粒子も目に見えない。そこで高校の理科では、そんな最先端の自然科学に行く前の準備の準備みたいなことを勉強する。たとえば、100年前に当時の最先端の自然科学者が研究したことを勉強するんだね。

そうするとひとつ問題が起ってくる。あらかじめ答えがわかっているから、つまらない! だって自然科学の一番の醍醐味は、今までわからなかったことがわかるということ。わからないから実験してみる。ここに自然科学の一番のおもしろさもある理由もあるんだ。そこでひとつのやり方として、教科書に書いてあることは知らないことにする方法がある。

これは予習してこないっていう意味じゃないよ。教科書に書いてあるけど、それは嘘かもしれない、まったく知らないと思うんだ。そうすると実験したときに、あつ、わかったというおもしろさが生まれて、確実な知識として身につくようになるんだ。

自然科学に興味のある人は、学校で教わるベースに関係なく、現在の自然科学に関する本を読んで、おもしろがってほしいな。そのうえで、物事の順序として、学校の勉強はすべての基礎になっていることを忘れないでほしい。

社会科(地歴科・公民科)は、日常生活でいくうえで欠かすことのできないさまざまな知識を、系統的にまとめて教えてくれる学問だ。数学などに比べて、なぜこの勉強が必要なのかかわかりやすいと思うな。

たとえば、家族の誰かが病気になったとき、健康保険や医療費の知識が必要になる。それから、学校を卒業して社会人になって働いたら、会社のことは知っておいたほうがいい。

い。社員としての役割だとか、どうしたら社長になれるとかね。旅行に行くとしたら地理についても知っておいたほうがいい。それから20歳になったら選挙権が得られる。選挙というのは、自分の選挙権行使して国の運営に参加すること。そのときに国の仕組みがわからなければ本当の意味での参加ができない。それに国の仕組みについてわかっていない人が大勢出てきて、めちゃくちゃな投票をしたら、国自体がとんでもないことになってしまう。最低限自分の行動に責任を持つという意味から、国について十分理解する必要があるんだ。

ただ、社会というのは生き物だから刻々と変化する。学校で教わった知識が一生有効だとは限らない。まずは学校で教わるものを頭に整理して入れておこう。そのあとは、新聞や雑誌を見て自分で修正していけばいい。それから高校生になったら、教科書以外のいろんな本を読んで社会についての見聞を広めてほしいな。

『AERA MOOK12 社会学がわかる。』1996.2.10発行 pp.174 朝日新聞 おまけ

制度の生成3



橋爪大三郎
『言語ゲームと
社会理論』

勁草書房・1985年

われわれを取り巻く世界は「言語ゲーム」の巨大な渦巻のようなものとして存在している。世界の中心をなすはずの主体の形象もその中でのみ生み出される。したがって主体が言語を掌握するのではない。むしろ逆に言語こそが主体を掌握するのだ。本書はヴィト

ゲンシュタインの「言語ゲーム」の発想に依拠しつつ、さらにはハートやルーマンの法理論を援用することで、法や権力といった社会的現象の言語的成り立ちを明らかにする。いわゆる「言語論的転回」の成果をいち早く取り入れたものとして必読の一冊である。

『AERA MOOK12 社会学がわかる。』

1996.2.10発行 pp.177 朝日新聞 おまけ

性愛のかたち
家族のかたち2



橋爪大三郎
『性愛論』

岩波書店・1995年

性愛とは自分か他者の身体を欲する現象であり、人間は他の動物よりも高度で複雑な性愛のかたちを持つ。本書は、この性愛をめぐる謎に社会科学的方法で迫ろうとする試みである。そこでは「性愛の分離公理」(=性愛領域か他の社会領域から隔てられていること)を軸に、複雑な現象するのは当該社会が性愛領域を公的領域から分離したことの帰結であること、性別はイデ

オロジーであり、家族内部の分離さえ維持されれば原則的に不要なものであること、「近親相姦の禁止」は分離公理が家族内部に写像されたことの効果であることなどが明らかにされる。さらにはフェミニズムの動きに言及する中で、性愛倫理の彼岸への方向性が模索される。「性愛そのものの切実な感心に引き寄せられた人々」に おすすめの一冊。